

東京 IPO 特別コラム

2017年4月19日 Vol.76

調整から反転の動き見えるIPO銘柄

東京では桜の花も散り、初夏の様相を示し始めていますが、2017年のIPOも昨日の旅工房（6548・マザーズ）まで31銘柄が投資家の皆様にご取引の対象としてお披露目されています。21ものIPO銘柄が賑やかに登場した3月IPO市場から一転してゆったりとしたペースで4月のIPOは進んできました。東アジア情勢を背景に全体相場は期待に反して調整傾向が続いて参りましたが、その中でIPO市場は二極化の動きが見られるとは言え、それなりに消化され今後の企業成長に向けた資金提供と投資家の期待を未来に残す形となっています。調整から多少でも反転の動きが見え始めた2017年のIPO銘柄をチェックしてみたいと思います。

今年のIPO第1号は1月27日のシャノン（3976・マザーズ）で公開株価は初値で4.2倍にもなりましたが、その後は大きく調整してしまいました。そこから2月の5銘柄（安江工務店からレノバまで）、3月の21銘柄（ロコンドからネットマーケティングまで）、4月は本日現在、テモナから旅工房までの4銘柄（25日にはアセンテックのIPOが予定）がIPOを果たしています。東京IPOサイトにてチェックしてみた結果、これらのうち公開価格を下回って初値がついたのは4銘柄（マクロミル、スシロー、ウェーブロック、LIXILピバ）でそれぞれ東証1部、東証2部上場で公開株数が多く消化しきれなかったようです。またコミック配信サービスのピーグリー（3981）も公開株数が多く初値は公開価格の1円プラスと穏健なものとなりました。シャノンとともに公開価格から初値まで最大の値上がりとなったのは3月30日に上場したビッグデータ、AI関連のユーザーローカル（3984）で約4.3倍となりました。これは需給が良く上場前からの人気が高かったせいもあるかと思われます。多くの投資家にとっての関心事は初値から高値までの上昇率かと思いますが、初値からその後の高値まで2倍以上となった銘柄は再生可能エネルギー関連のレノバ（9519・初値1125円から高値2295円まで2.04倍）及びEC運営企業の物流管理を行うファイズ（9325・初値4010円から高値8370円まで2.09倍）です。レノバは既に高値から初値水準まで調整していますが、ファイズはその後も比較的値もちが良く、1-3月のIPOではファイズの値動きが傑出しているようです。

また、意外性のある銘柄では3月24日にマザーズに上場した創薬ベンチャーのソレイジア・ファーマ（4597・マザーズ）が異色の値動き。公開価格185円から初値234円（+26.5%）を経て、本日のストップ高539円まで初値から2.3倍の株価になってきました。このように調整局面の中でも人気を集めているIPO銘柄は見出せます。これが一過性で終わるのかどうかはともかく調整局面こそチャンスと見るチャレンジングな投資家の皆さんもお見えになるのかも知れません。こうした動きが全体相場にも波及することを期待したいと思います。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）